

にけーしよん



4/1・2

私たちの城ができたよ!

深浦地区の伝統行事「節句の城遊び」に、深浦小学校児童26名が参加し、竹やスギ、ダンボールで作った手作りの「一夜城」で1泊2日の宿泊体験に18名が挑戦しました。

また、大漁旗やカラフルな旗で飾られた城の周りで、嬉しそうな笑顔ではしゃぐ児童の姿があり、ゲーム機以外の楽しさも体感できたようでした。



アラスカからの癒しと警告

プラザじょうへんで、松山市出身の写真家、松本紀生さんの「アラスカ・フォトライブ」が行われ、参加した約60名が感動の一時を過ごしました。松本さんは、夏は無人島、冬は-30℃を越える氷河の上のかまくらで、たった独りで過ごし、ザトウクジラや北米大陸最高峰マッキンリー(6,194m)の上に広がるオーロラ等、極地アラスカの大自然を撮影し続けています。

フォトライブでは、松本さんが撮影した写真やビデオをゆったりとした音楽とともに、スライド形式で紹介され、今まで見たこともない美しい映像が映される度に、参加者からも歓声が上がっていました。

その一方で、森林伐採や温暖化の影響で消滅の危機にある村が多くあることなど、美しい写真の裏側にある自然からの警告を学ぶ機会となりました。

4/5 鈴の音は、右側歩行の知らせだよ!

緑保育所で、園児たちを交通事故から守ろうと、南宇和交通安全協会(宮下建夫会長)による「鈴付きリボン贈呈式」が行われ、初々しい新入園児を含む10名の右肩に、黄色の鈴付きリボンが付けられました。同式では、愛南警察署の徳本交通課長から「道路では遊ばない、飛び出しはしない」等の交通ルールについて説明があり、園児も大きな声で元気よく復唱していました。なお、全保育所の新入園児には県交通安全協会から、在園児には南宇和交通安全協会から、それぞれ「鈴付きリボン」が贈呈されています。



愛南こみゆ



3/23

まちの元気、集まれ!

まちの元気を集め、その力でまちに活気を呼び込もうと、愛南町ボランティア連絡会(会長大森洋子さん)が主催して城辺商店街で「げんき市」が行われました。今年で4回目となる同市には、「まちの魅力を再発見!展」など、33の企画展が出展。ストリートダンスも登場し、多くの家族連れで賑わっていました。



3/16

できることは 広がり、元気と活気 が生れる!

山出憩いの里温泉で「NPO法人ハートinハートなんぐん市場」が、ごみゼロ運動等、斬新な発想で商店会の活性化に取り組む東京・新宿区の早稲田商店会長で衆議院議員の安井潤一郎さんを招き「愛南町を元気にする処方箋」と題した講演会を行い、地区住民、約80名が参加しました。

講師の安井さんは、ごみ減量化をめざしたイベント、アンテナショップ(物産販売)を活用した地方との交流等、先駆的な実践を飾らない言葉で紹介され「環境を切り口にまちづくりを行う中で、儲かって、楽しいことが、町や人を動かすエネルギーになる」と、行動を起すことの大切さを強調されました。



3/23

さようなら、 大好きな魚神山 小学校

平成19年度をもって閉校となる魚神山小学校で閉校式があり、在校生12名を含む地区住民、約200名が参列し、記念式典が行われました。式典の中で谷口町長が「子どもたちの将来を考え、より良い教育環境の中で学ぶことが重要という観点から、閉校という選択に至りました」と式辞を述べました。

同校は、漁業の先達であった故浦和盛三郎さんが、明治5年に開校した網代小学校から、幾多の変遷を経て、愛南町立魚神山小学校となり、これまでの135年間に、計1,265名の卒業生を輩出してきました。現在、児童たちは、スクールバスで家串小学校に通っています。

3/23

一年間の思いを込め、 力強く演奏



御荘文化センターで、2007年の集大成となる南宇和高等学校吹奏楽部の「第22回定期演奏会」が行われました。今年の演奏会は、歌や踊り、朗読で構成されたステージに加え、ハンガリーから世界的に有名なテューバ奏者のローランド・セントパリさん、トロンボーン・ユーフォニア奏者の阿部竜之介さんを特別ゲストに迎え、素晴らしい音色が響いた感動ステージとなりました。また、3年生にとっては、吹奏楽部3年間の成果を発表する場となり、涙と笑顔で思い出に残る一日となったようでした。